

## 天皇陛下おことば



「第35回国民文化祭・みやざき2020」・「第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会」の開会式に、オンラインという形で、皆さんと共に出席できることをうれしく思います。

宮崎県は、温暖な気候と美しい自然に恵まれ、霧島連山に代表される緑豊かな山々をもたらす「山の幸」と、黒潮に乗って運ばれてくる日向灘の「海の幸」など、自然の恵みの中で豊かな食文化が育まれてきました。また、宮崎県は、古事記や日本書紀に描かれた神話の舞台とされ、数多くの神話や伝承ゆかりの地が残されており、200を超える神楽や各地域の祭りに代表される伝統文化が息づいています。

この宮崎の地に、全国各地でさまざまな文化活動に取り組まれている方々を迎え、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭が開催されることは、誠に意義深いことです。関係者の皆さんが開催のために払われた努力に対し、心から敬意を表します。

私たちは現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による困難に直面しており、文化芸術

に携わる皆さんの御苦勞もいかに感じています。このような中、文化芸術の持つ力により、人々の心に安らぎを与え、困難な状況を乗り越えていくためのエネルギーを生み出す場として、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭が大きな役割を果たすことを期待しております。

今大会は、「山の幸 海の幸 いざ神話の源流へ」というテーマの下で、これまでの暮らしや営みの中で育まれてきた文化を発信し、障害のある方もない方も共に楽しみ、感動を分かち合えるような文化芸術の取組を県内各地で行うことになるかと伺っています。このような取組を通じて、地域や世代を超えた人と人との絆が深まり、地域の伝統や文化の良さが再認識されるとともに、文化芸術活動の裾野が広がり、創造性豊かな新しい文化や価値観の創出につながっていくことを期待しています。

「国民文化祭・みやざき2020」・「全国障害者芸術・文化祭みやざき大会」が大きな成功を収めることを願い、私の挨拶といたします。

# 主催者あいさつ

文部科学副大臣

高橋 ひなこ



本日、天皇皇后両陛下のオンラインによる御覧を仰ぎ、「第35回国民文化祭・みやざき2020」・「第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会」が、盛大に開催されますことを大変喜ばしく思います。

国民文化祭は、国民の皆様が日頃から行っている文化芸術活動を、全国的な規模で発表、共演、交流する場であるとともに、地域の文化資源等の特色を、観光やまちづくりなどの施策と有機的に連携しつつ、全国に発信する文化の祭典として、昭和61年から開催しております。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、前例のない開催延期となり、開催地である宮崎県や文化関係団体などの皆様には、多大なる御心労をおかけしました。本日の開催に至るまで、文化芸術の火を灯し続けていただいた関係者の皆様には、心から感謝申し上げます。

今大会は、「山の幸 海の幸 いざ神話の源流へ」のキャッチフレーズのもと、本日から10月17日までの107日間、「全国障害者芸術・文化祭」と一体的に開催し、宮崎県内の全ての市町村において、多彩な文化プログラムが展開されます。

あらゆる人々が、宮崎の豊かな自然と神話の源流が息づく文化に触れ、交流することで、文化で紡ぐ共生社会の実現と文化芸術の振興がより一層図られることを期待いたします。

また、文部科学省では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、「日本の美」を国内外へ発信する「日本博」等の文化プログラムを全国で展開することとしており、本大会もその一つとして位置づけられています。今後とも、地方創生や観光等の関連分野とも連携しながら、文化行政を総合的に推進し、我が国の文化芸術が、より一層光り輝くような「文化芸術立国」の実現に取り組んでまいります。

結びに、本大会の開催に当たり、格別の御尽力、御協力をいただいた宮崎県、開催市町村、文化関係団体をはじめ、関係する全ての皆様に深く感謝申し上げますとともに、大会の成功を心から祈念しまして、挨拶いたします。

# 主催者あいさつ

厚生労働大臣  
田村 憲久



本日、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「第20回全国障害者芸術・文化祭りやぎき大会」が「第35回国民文化祭・みやぎ2020」と同時に開催されるに当たり、主催者の一人として、一言御挨拶申し上げます。

本日は、新型コロナウイルス感染症への対応のため、この開会式に皆様と御一緒できず大変残念ではありますが、本大会の開催に当たっては、感染症対策の徹底に御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

全国障害者芸術・文化祭は、芸術文化活動への取組を通じて、障害のある方々が自己を表現し、より一層の自立と社会参加を実現するとともに、国民の障害への理解を深めることを目的として、毎年開催しています。

現在では、国民文化祭との一体的な開催により、障害の有無にかかわらず、すべての方が、ともに、楽しみや感動を分かち合う祭典となっていることを、大変嬉しく思います。

本大会では、宮崎県内で活躍される障害のある方々が主役となるコンサート、演劇、映画上映、作品展など魅力あふれるイベントが行われます。作り手の方だけでなく、その御家族や御友人、作品や発表を楽しみに来場される多くの皆様と一緒に、大会を盛り上げていただきたいと思っております。

また、障害のある方々となない方々が一緒に参

加する取組も行われ、新しい出会いや交流の場が生まれています。“日本のひなた”であるここ宮崎において、障害の有無にかかわらず、全ての人がお互いを尊重しながら、ともに芸術を楽しむあたたかい土壌が生まれ、全国にも広がることを願っております。

厚生労働省では、全国一丸となって本大会を盛り上げる「障害者芸術・文化祭のサテライト開催事業」を実施しています。その一つとして、全国の障害のある方々が描かれた羽根を集めて、大きな「不死鳥」の絵が制作されました。

現在、この大きな壁画が、お隣の県立美術館に展示されています。困難を乗り越えて羽ばたくこの伝説の鳥が、多くの人々を勇気づけ、活力を与えてくれることを願っています。

厚生労働省としても、引き続き、地域の芸術文化活動の支援拠点を整備することにより、障害のある方々の芸術文化活動の全国的な推進を図ってまいります。

結びに、新型コロナウイルス感染症の拡大による大会の延期など、大変な御苦労もあった中、開催に向けて格別の御尽力をいただきました宮崎県、開催市町村、芸術文化団体をはじめ、関係する多くの方々に深く感謝申し上げますとともに、大会の成功を心から祈念して、私の挨拶といたします。

# 主催者あいさつ

第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、  
第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長  
宮崎県知事

## 河野 俊嗣



天皇皇后両陛下におかれましては、現下の新型コロナウイルス感染症をめぐる状況に鑑み、オンラインで式典にお出ましをいただいております。県民を代表し、心より御礼を申し上げます。

「第35回国民文化祭・みやざき2020」「第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会」は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、開催を今年度に延期したところではありますが、このたび、市町村及び文化団体等、多くの皆様の御協力をいただき、宮崎県で開催できますことは大変喜ばしいことであり、大会に御参加いただく皆さまを心から歓迎いたします。

昨年度は、本大会の一環として、感染症対策を講じながら「国文祭・芸文祭みやざき2020さきがけプログラム」を実施し、県と市町村合わせて34のプログラムに延べ2万4,000人以上の方々に御参加いただきました。本プログラムを通して、文化芸術には人と人をつなげ、私たちの心をひとつにする力があることを改めて実感しております。

宮崎県は、古事記や日本書紀に描かれた日向神話の舞台であり、その魅力を発信するため、古事記編さん1300年となる2012年から、日本書紀編さん1300年となる2020年にかけて「記紀編さん1300年記念事業」に取り組んでまいりました。

本大会はその集大成としても位置づけてお

り、「山の幸 海の幸 いざ神話の源流へ」の大会テーマのもと、107日間の期間中には、本県がこれまでの暮らしや営みの中で育んできた「記紀・神話・神楽」「宮崎国際音楽祭」「若山牧水」「宮崎の食文化」に焦点を当てたプログラムのほか、県内全26市町村において地域色にあふれた多彩なプログラム、そして、障がいのある人もない人も共に楽しむ芸術文化プログラムを実施いたします。

この大会が、神代の時代から悠久の時を経て継承され、育まれてきた本県文化の魅力を、県内外そして未来へ力強く発信していく素晴らしい機会となり、多くの皆さまに前に進む勇気や元気を与え、コロナ禍からの復興の光、まさに現代の『天岩戸開き神話』となることを願っております。

また、本日のフェスティバルでは、大会テーマの世界をストーリー化し、国内外で活躍する出演者と県民の力を結集させた舞台を披露いたします。音楽や映像、ダンス、伝統芸能等を織り交ぜた、迫力あるステージを是非ともお楽しみいただければと思います。

結びに、本県での開催に格別の御尽力と御支援をいただきました文部科学大臣、厚生労働大臣そして全ての関係者の皆様に心から感謝を申し上げます、開会の挨拶といたします。

# 歓迎の辞

宮崎県議会議長

中野 一則



本日ここに、天皇皇后両陛下のオンラインでの御臨席を仰ぎ、全国各地からの皆様をお迎えし、「第35回国民文化祭・みやざき2020」及び「第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会」を開催できますことは、宮崎県民にとってこの上ない喜びであり、宮崎県議会を代表いたしまして、心から歓迎申し上げます。

本来であれば、昨年10月から12月にかけて開催する予定のところを、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い延期となりましたが、ようやく本日開催の運びとなりました。今回の開催に向けて多大なる御尽力をいただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、文化は人間の知恵であり、秩序ある生活との結合であるとともに、いつの時代にも人々が幸福な生活を営む上で大変重要なものがあります。また、昨今のコロナ禍においても、人々の絆をつなぎ、人を育て、心にゆとりや希望を与える存在であります。本文化祭は、そのような文化活動に日頃より携わっておられる皆様が、ここ宮崎で一堂に会し、障害のあるなしに関わらず、お互いを尊重しながら、文化芸術を楽しみ交流いただける、誠に意義深い機会であると考えております。

宮崎は、『古事記』や『日本書紀』に記された神々の物語にまつわる地域が数多く点在する、まさに「神話の源流」であります。本文化

祭のテーマにも「山の幸 海の幸 いざ神話の源流へ」を掲げ、本県の特徴ある文化や海幸山幸を存分に感じていただけるよう、県と市町村、そして多くの文化団体が一体となって準備を進めてまいりました。

全国各地から御来県いただきました皆様におかれましては、この機会に、本県の伝統や魅力を十分に御堪能いただければ幸いです。そして、本文化祭を通じて得た成果を、今後、全国それぞれの地域での文化芸術活動に生かしていただき、一層の文化振興が図られることを御期待申し上げます。

結びに、本日から10月17日までの107日間にわたり開催される本文化祭の成功と、御参会の皆様のご健康を祈念申し上げ、歓迎の御挨拶といたします。